

はじめに

本研究は、主として小・中学校の通常の学級の教員を対象に、インクルーシブ教育システムの目的や意義について理解啓発を行うための方策を検討し提案することを目指した。インクルーシブ教育システムの理解啓発とは、大変大きなテーマであるが、本研究では、中央教育審議会初等中等教育分科会の報告も踏まえ、「小・中学校において特別支援教育を発展させていくための理解啓発」とした。つまり、小・中学校の通常の学級の教師に対し、特別支援教育の目的や意義を伝え、学び合うことで各学校や地域における特別支援教育を一層発展させていくことを目指した。

特別支援教育に関しては、各教育委員会が研修を実施したり、冊子やリーフレットを作成し配布したりするなど、既に様々な取組がなされている。しかし、教育委員会の担当者からは、丁寧に準備して実施した研修が実践に活かされていないとか、時間と労力をかけて作成した冊子やリーフレットが読まれていない等の声を聞くことが多い。本研究に参加した教育委員会の担当者からも同じことが述べられ、それが各地域の課題となっていた。

なぜ、特別支援教育に関する研修や冊子等が通常の学級で十分に活用されないのか？

本研究では、常にこの問いと向き合うこととなった。

本研究所の研究チームのスタッフは、特別支援教育を専門としており、通常の学級で、今、何が起きているかを十分には知らない者たちばかりであった。そこで、研究チームでは、小・中学校を中心に訪問調査と質問紙調査を実施し、実態把握を行うとともに、小・中学校の率直な思いを聞き取り、謙虚に学ぶ姿勢を大切にしてきた。それは、各指定研究協力地域における研究でも同様であった。こうした研究を通して、特別支援教育の目的や意義が通常の学級の教師に届くためには、以下の3つの視点が重要であることを認識した。

①理解啓発する相手を知ること

②理解啓発する相手に届くメッセージ（情報・手立て・願い）を作成し発信すること

③理解啓発する相手をつなげる方策を持つこと

これらの視点を大切にしながら研究を推進した。研究は、研究チームによる実態把握のほか、10 県市が取り組んだ 10 の研究課題であり以下の3点にまとめることができる。

①インクルーシブ教育システムの理解啓発に向けた校内研修モデルに関する研究

②インクルーシブ教育システムの理解啓発に向けた教育委員会の研修等に関する研究

③インクルーシブ教育システムの理解啓発に向けた地域の体制整備に関する研究

いずれの研究も地域の課題の解決を目指すものであった。しかし、その成果は汎用性が高く、全国の自治体や学校で活用いただける具体的かつ実践的なものとなった。この報告書をご覧いただくと、各自治体や学校の課題に関連する内容があると思われる。是非、ご活用いただき、忌憚のないご意見をいただければ幸いである。

研究代表者

インクルーシブ教育システム推進センター 上席総括研究員 久保山 茂樹